

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

南幌町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道空知郡南幌町

3 地域再生計画の区域

北海道空知郡南幌町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は2000年の9,792人をピークに減少しており、7,927人（2015年国勢調査結果）まで減少している。国がまとめた北海道内市町村の総人口の将来推計値等において、本町の総人口は2015年の7,927人から2045年の3,893人に減少し、増減率はマイナス50.9%となる予測がされている。

5年毎の自然増減（出生と死亡の差で計算）と社会増減（町への転入と転出の差で計算）をみると、2000年以降は自然減、社会減のいわゆる「ダブル減」の状況が定着しており、その減少幅が広がっている。また、合計特殊出生率も、減少傾向が続いており、若い人たちの減少とあわせて、出生数の減少が顕著である。

高齢化率においては2015年の29%から2045年には63%と予測され、高齢化増加率は33.6%となり、北海道市町村の高齢化スピード予測において第1位としてインターネット地域経済サイトなどで公開されている。

高齢化率が急増するという本町における脆弱な人口構造は、平成初期の団地造成に伴う子育て世代を中心とした転入者により人口が急増したことが要因であり、若い世代の移住・定住を促進し、急速な高齢化を如何に抑えることができるかが持続可能なまちを目指すための大きな課題と位置付けている。

本町は札幌市中心部まで車で約45分、新千歳空港へも同程度の時間でアクセス可能であることに加え、現在整備中の新千歳空港と石狩湾進行を結ぶ高規格道路が本町を通過するため、開通後は新千歳空港までの所要時間も25分まで短縮

されるなどの地理的優位性を地域課題の解決に繋げ、まち・ひと・しごと創生総合戦略の目指すビジョンとして掲げている「30年後も子ども達といる風景」の実現のため地域再生を図る。

なお、取組みにあたっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げる。

- ・基本目標1 若い世代の結婚・出産・子育てを支援する
- ・基本目標2 南幌への新しい人の流れをつくる
- ・基本目標3 安心して働ける雇用環境をつくる
- ・基本目標4 時代に合った地域をつくり安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	KPI	現状値 (計画開始時)	目標値 (2022年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	合計特殊出生率	1.15	1.23	基本目標1
イ	観光客入込数	299,406人	390,000人	基本目標2
ウ	町内在住の就業者数	4,385人	4,385人	基本目標3
エ	社会減数	82人	67人	基本目標4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

南幌町まち・ひと・しごと創生推進計画

- ア 若い世代の結婚・出産・子育てを支援する事業
- イ 南幌への新しい人の流れをつくる事業
- ウ 安心して働ける雇用環境をつくる事業
- エ 時代に合った地域をつくり安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する事業

② 事業の内容

- ア 若い世代の結婚・出産・子育てを支援する事業

子ども達が天候を気にせず、いつでも安心して遊べる遊び場「誘客交流拠点施設」を整備することで、子ども達の居場所づくりや、母親同士の交流の場としての機能を有することで、地域課題の一つである子育て環境の充実を図るなど、若い世代の結婚・出産・子育てを支援する事業。

【具体的な事業】

- ・ 誘客交流拠点施設の整備
- ・ 食育活動の推進 等

- イ 南幌への新しい人の流れをつくる事業

2023年の北海道ボールパークオープンに向けて、食の魅力提供やスポーツ交流、各市町村の観光拠点を結ぶ周遊策、整備を予定している誘客交流拠点施設の積極的活用など近隣自治体との連携を図る。また、数年後に開通が予定されている「道央圏連絡道路」は、人の流れが大きく変わることが予想され、本町市街地に足を運んでもらうための大きな施策として、誘客交流拠点施設と連動したエリアマネジメントを進めるなど、南幌への新しい人の流れをつくる事業。

【具体的な事業】

- ・ 南幌温泉を核とした魅力ある観光地・南幌町のPRや情報発信
- ・ 町内案内地図の作成及び観光案内標識の整備 等

- ウ 安心して働ける雇用環境をつくる事業

誘客交流拠点施設を中心としたエリアマネジメントを図り、地域の活性化を促進するとともに当該エリアでの雇用の創出を図る。また、本町の地理的優位性や子育て環境の良さを最大限に活かし、札幌市や東名阪地域に本社を有する企業のサテライトオフィス整備の市場価値について、

企業へのニーズ調査等を実施するなど、安心して働ける雇用環境をつくる事業。

【具体的な事業】

- ・町内で仕事を創出する企業への支援
- ・多様な働き方を支える雇用環境の整備 等

エ 時代に合った地域をつくり安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する事業

本事業は「なんぼろ暮らしデザインプロジェクト」をテーマに、中央公園を含む一帯エリアの賑わい創出や「多様な暮らし方、多様な働き方」を住民主体の活動の中でデザインすることを目的としている。エリアの賑わい創いのために、公民連携D B O方式を採用し中央公園内に整備を予定している誘客交流拠点施設の「運営企業」「地域の団体・人材」「公共」のほか、有識者や学生などにより組織されたエリアマネジメント会議を開催し、「何をしたいか…」を自主的に考える「場」と「実践できる仕組み」を整備し、イベント開催等の実践に繋げることで、魅力あるエリアマネジメントと将来のまちづくりを担う組織の自走化を図る。本拠点施設内のオープンスペースや屋外のスペースを活用したイベント開催等は、賑わい創出だけでなく、町民の活動の場、活躍の機会として、エリアマネジメントに大きく寄与するものと考え、積極的な活用につなげるための仕組みを整備していく。また、これらの活動の中に、高齢者が生きがいを持ち、日々の生活を張りのあるものにするため、豊富な人生経験で得た知識とスキルを町内外の子ども達に遊びを通じて伝える場を設け、高齢者が子どもと関わる南幌らしいまちづくりを進める。さらには、ここ数年で移住世帯が増加傾向にあり、中央公園エリアに隣接する「美園地区」の移住者がエリアマネジメント協議会に参画することで、既存住民と移住者の円滑なコミュニケーションを図りながら、「南幌らしい暮らしのデザイン」の実現に向けて地域をマネジメントし、持続的な地域コミュニティの形成を図るなど、時代に合った地域をつくり安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する事業。

【具体的な事業】

- ・住宅リフォーム助成
 - ・協働のまちづくりを目指すためのまちづくり活動への支援 等
- ※ なお、詳細は南幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4の数値目標に同じ。

④ 寄附の金額の目安

203,000千円（2020年度～2022年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C Aサイクル）

毎年度末の実績を毎年度8月頃に開催する、産官学金言等で構成された南幌町地方創生推進会議において効果検証を行い、翌年度以降の取組に反映させる。なお、目標の達成状況等については、検証後に南幌町ホームページで公表する

⑥ 事業実施期間

2020年4月1日から2023年3月31日まで

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

2020年4月1日から2023年3月31日まで